



# 環境マネジメント

私たちの製品・サービスを通じて、社会の環境課題を解決できるように、環境配慮型製品の開発に努めること、また私たちの事業活動に伴い発生する環境負荷を低減するため、エネルギーの有効利用、廃棄物排出量の削減などを重点目標に掲げ、環境管理活動に取り組んでいます。

## 推進体制

本社・支社及び製造事業所の委員で構成される環境委員会を中心に環境管理活動に取り組んでいます。

「大日精化の環境方針」に基づく環境法令の順守を徹底するとともに、「地球温暖化対策としてエネルギーの有効利用の推進」「PRTR※対象物質の排出量削減」「廃棄物排出量の削減とリサイクルの推進」「地域社会の環境保全活動」などの実績や改善情報を水平展開することで企業の社会的責任をより一層果たしてまいります。

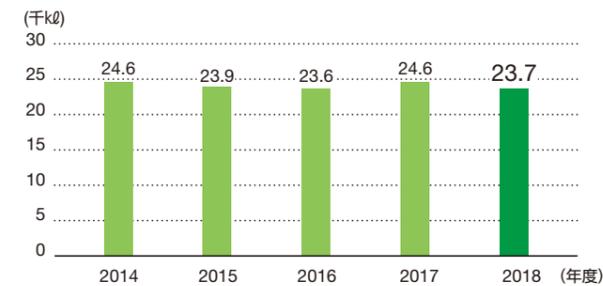
2019年4月にサポート組織である環境安全統括室を新設し、化学物質管理委員会など他の社内組織とも連携を強化することで、活動の深化を積極的に推し進めていきます。

### 大日精化の環境方針

- 1 経営者、全社員が環境管理活動に参画します。
- 2 環境に配慮した製品の開発に努めます。
- 3 環境負荷の減少に努力します。
- 4 法規、条例、協定などを守ります。
- 5 社会との調和を図るよう対話を深めます。

※ PRTR(Pollutant Release and Transfer Register):有害性のある多種多様な化学物質がどのような発生源からどの程度環境中に排出されたか、あるいは廃棄物などに含まれて事業所の外に移動したかというデータを集計・報告し公表する制度

### エネルギー使用量の推移(原油換算)



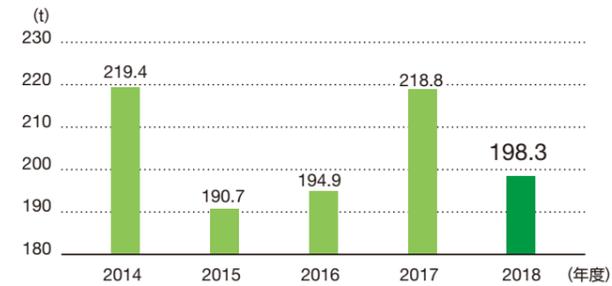
### 廃棄物 リサイクル量・最終処分量



### CO<sub>2</sub>排出数量



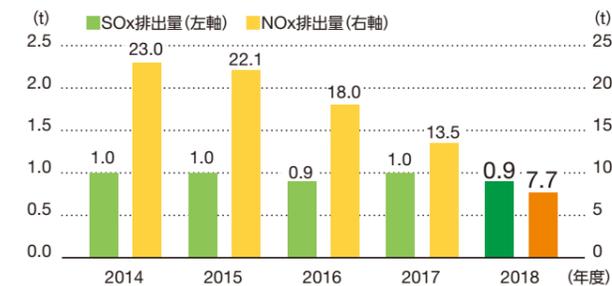
### PRTR対象物質排出量



### エネルギー原単位と生産数量の推移

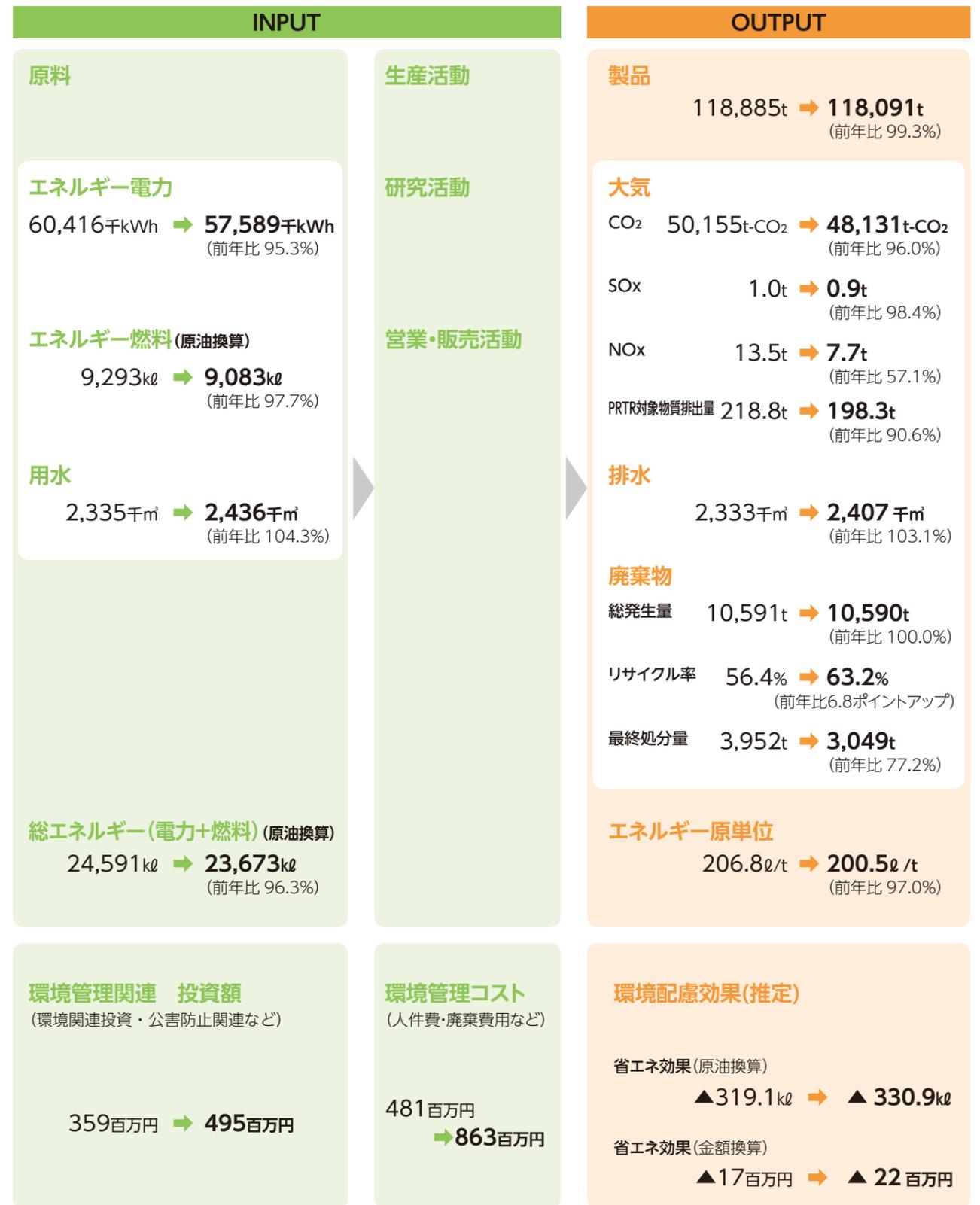


### SO<sub>x</sub>・NO<sub>x</sub>排出量



## 事業活動のマテリアルフロー

事業活動のため投入した資源・エネルギー量、発生した環境負荷に関する数値を把握・分析し、エネルギーの効率的な利用に向けた取り組みに反映させています。





# 環境管理活動評価と次年度目標

昨年度、各事業所ではそれぞれのEMS\*活動を通じ、  
本社・支社においては新規に下記の目標を設定し、環境管理活動を全社的に展開しました。

\*EMS：Environmental Management System の略で、環境方針を作成し、実施し、達成し、見直しかつ維持するための計画・体制・プロセスのこと。

## 事業所

☆☆目標達成 ☆☆ほぼ達成 ★★要努力

項目	取り組み概要	目標	活動内容	結果・実績	評価	2019 年度目標
1	地球温暖化対策 (エネルギーの有効利用)	エネルギーの有効利用に 取り組む	エネルギー原単位を前年 比1%減を目指す	エネルギーの有効利用を目的とするさまざまな 省エネ機器の導入、設備の運用方法の改善など に取り組みました。	エネルギー原単位は、生産量ベースで前年度比3%減となった ものの、売上金額ベースでは同5%増となりました。	☆☆ 【目標】エネルギー原単位を前年比1%減を目指す 今後も計画的な省エネ機器の導入と運用方法の改善に加え、 再生可能エネルギーの導入に向けた検討に努めていきます。
2	環境配慮型製品の開発・ 売上高向上	環境配慮型製品の開発を 推進し、販売を促進する	環境配慮型製品の売上高 向上	印刷インキや接着剤、ウレタン樹脂の水溶性製 品の販売を促進しました。	環境配慮型製品の売上高は前年度比6%減となりました。	★★ 【目標】環境配慮型製品の売上高を向上させる ①環境配慮型製品の開発・登録の促進 CO <sub>2</sub> 削減に寄与するウレタン樹脂「HPU」の販売促進 バイオマス系製品の開発・販売促進 ②省エネ・蓄エネに寄与する材料の開発促進
3	廃棄物削減 リサイクル推進	廃棄物発生の抑制に取り 組み、リサイクル化を推進 し、最終処分量の削減に 努める	◎リサイクル率を前年度比 1ポイント増を目指す ◎最終処分量を前年度比 1%減を目指す	主な廃棄物発生源である排水処理施設から発生 する汚泥のリサイクル化を進めるなどの改善を行 いました。	最終処分量は前年度比23%減、リサイクル率は同7ポイント向上し ました。	☆☆ 【目標】◎リサイクル率を前年度比1ポイント増を目指す ◎最終処分量を前年度比1%減を目指す 今後も、最終処分量、リサイクル率をともに改善するように努め ていきます。 また、昨今社会的な課題となっています廃プラスチック処理につ いては、プラスチックを扱う当社グループでも重要な検討テーマ と捉えており、排出量削減とリサイクル方法の見直しの検討を進 めていきます。
4	化学物質の排出量削減	PRTR 対象物質の排出量 削減に取り組む	PRTR 対象物質排出量を前 年度比1%削減を目指す	溶剤回収装置の整備や対象物質に変わる資材へ の切り替えなどを進めました。	PRTR 対象物質の排出量は前年度比9%減となりました。	☆☆ 【目標】前年度比1%削減を目指す 溶剤回収設備をはじめとする除害設備の導入、PRTR 対象物質の代 替品の採用を推進するとともに、取り扱い方法の見直しも含めて、 PRTR 対象物質の排出量削減に努めます。
5	法的要求事項の順守 (大気・水質・振動・騒音)	環境関連法令・基準を順 守し、各種届け出を漏れ なく実施する	違反件数ゼロ件	汚染物質の大気や水域、土壌への排出による環 境汚染を防止するために、汚染物質の排出管理 を行いました。	適切に管理・運営しました。	☆☆ 【目標】違反件数ゼロ件 今後も排水処理設備、溶剤回収設備など除害設備の適切な維持管 理に努めます。
6	社会との調和	近隣住民の方からの苦情 に対し、その原因を調査し、 再発防止策を徹底する	近隣住民の方からの新規 苦情発生ゼロ件を目指す	ご指摘いただいた事案につき、原因究明と再発 防止策を立案・実施し、関係者への注意喚起を 行いました。 また、自主的な土壌調査の結果、敷地内の土壌 から環境基準を超えるダイオキシン類が検出さ れた東京製造事業所及び東海製造事業所では、 自主的な環境対策として土壌入れ替えなどによ り汚染源除去を進めました。	前年度から2件減少したものの、2件の苦情がありました。 ◎東海製造事業所での臭気ご指摘 ◎川口製造事業所での植木はみ出しのご指摘	★★ 【目標】今後も新規苦情発生ゼロ件を目指すとともに、ご指摘い ただいた事案に対しては、内容を真摯に受け止め、対応します。 東海製造事業所では2018年11月に土壌入れ替えを完了し、東 京製造事業所では土壌入れ替えを継続します。

## 本社・支社

項目	取り組み概要	目標	活動内容	結果・実績	評価	2019 年度目標
1	地球温暖化対策 (エネルギーの有効利用)	空調設備の設定温度の見 直しなどを行い、電力の 効率的な利用を心がける。	エネルギー原単位を前年 度比1%減を目指す。	照明設備のLED化、空調設備の温度設定の見 直し、各フロアでの室温管理、休憩時間の消灯 など基本的な取り組みを行いました。	前年度比5%減となりました。	☆☆ 【目標】エネルギー原単位を前年度比1%削減 引き続き、照明設備や空調設備などの基本的な運用管理を継続し ます。
2	グリーン購入	コピー用紙などの事務用 品に関し、可能な限り環 境負荷の低いものを購入 する	エコ商品購入比率の向上 を目指す。	事務用品の購入の際に、積極的にエコ商品を選 択することに努めました。	エコ商品購入比率は55.2%と、前年度比0.8ポイント減とな りました。	★★ 【目標】事務用品の購入の際に、 積極的にエコ商品を選択していきます。